

iPS細胞由来再生医薬品を開発し、 患者さんに治癒と希望を届ける

We will heal and bring hope to those who are suffering an intractable disease by making use of the regenerative power of iPSC therapies

鍵本 忠尚

株式会社ヘリオス 代表取締役社長

Kagimoto, Hardy TS (M.D.)

Healios K.K. President

設立の経緯と想い

当社はiPS細胞を用いた再生医薬品(以下、iPSC再生医薬品)の製造開発、事業化に取り組んでいる医薬品製造開発企業です。私が九州大学病院にて医師として勤務する中で出会った難病患者さんに対する思いに、その創業の原点があります。最も印象深い患者さんは、加齢黄斑変性の患者さんです。すでに満足な視力が得られない状態であり、私に「まだ生まれた孫の顔を見ていない、見ることができる治療法はないのか」と尋ねられました。私はその切実な願いに答えられず、己の無力さを実感し、必ずや加齢黄斑変性に対する有効な治療法を開発すると誓いました。

2011年2月24日、この思いを実現するために株式会社ヘリオス(旧社名 日本網膜研究所)を設立しまし

た。社名はギリシャ神話の太陽の神Helios(ヘリオス)とHeal(癒し・治す)の2つの言葉からつくりました。ギリシャ神話の中でヘリオスは失明したオリオンの目を太陽の光で治療したと語られております。適切な治療法がない患者さんに希望の光と癒しを届けたいという思いを込めました。当社のコーポレートロゴは3つの三日月から構成されています(図1)。これは私が出会った最も印象深い3人の難病患者さんを意味しており、初心を決して忘れないという思いが込められています。

iPSC再生医薬品のコンセプト

当社が開発を目指しているiPSC再生医薬品とは、iPS細胞を分化させた人体組織と近似の機能を持つ治療医薬品です。老化等の理由から変質してしまった細胞をiPS細胞から分化誘導した新しい細胞に置換することによって、失われた機能を再生させるという新しいコンセプトの治療薬となります。

当社は加齢黄斑変性を適応症とした製品を世界に先駆けて開発しようと取り組んでいます。加齢黄斑変性は、視細胞に栄養を与えメンテナンスしている網膜色素上皮(RPE)細胞が老化して機能が衰えたことが主たる原因として知られており、欧米では中途失明の最大の原因疾患となっています。私が研修医だった頃は有望な治療法が乏しかったのですが、現在は滲出型に関しては新生血管を抑制する抗VEGF薬があります。しかし、頻回眼内投与が必要で患者負担も大きく、課



図1 コーポレートロゴ